

201221076A

厚生労働科学研究費補助金
がん臨床研究事業

学校健康教育におけるがんについての教育プログラムの開発研究

平成 24 年度 総括・分担研究 報告書

研究代表者 植田 誠治

平成25年（2013）年5月

目 次

I. 総括研究年度終了報告

児童生徒のがんに関する意識と知識の全国実態調査 1

植田誠治

(資料) がんについての調査用紙 (小学生用・中学生用・高校生用)

調査依頼文, 調査の手引き

がんに関する指導の手引き目次案

II. 分担研究年度終了報告

1. カナダのブリティッシュコロンビア州におけるがん教育支援プログラム 31

—BC Cancer Agency におけるがん予防プログラム—

助友裕子

2. カナダのブリティッシュコロンビア州における健康教育 41

—The Directorate of Agencies for School Health を対象とした調査研究—

杉崎弘周

3. 米国カリフォルニア州の学校健康教育におけるがんについての教育の位置づけ . 49

植田誠治

4. PSHE 協会における教師支援プログラムの現状 57

物部博文

5. ハンプシャー州におけるヘルシー・スクールの現状 63

物部博文

6. ウェールズにおける学校健康教育の概要—がん教育の可能性を探る— 79

物部博文

7. ウェールズにおける健康教育 93

—Creigiau Primary School を対象とした調査研究—

杉崎弘周

III. 研究成果の刊行に関する一覧表 99

IV. 研究成果の刊行物・別冊 101

I. 総括年度終了報告

厚生労働科学研究費補助金（がん臨床研究事業）
学校健康教育におけるがんについての教育プログラムの開発研究

総括研究年度終了報告

児童生徒のがんに関する意識と知識の全国実態調査

研究代表者 植田誠治 聖心女子大学 教授

研究要旨：全国の小学年5年生，中学2年生，高校2年生の児童生徒を対象にがんに関する意識と知識の調査を行った。回収率は，小学校で44.1%（94校），中学校で46.4%（103校），高等学校で55.8%（116校）であった。回収された調査用紙における有効回答数は，小5で2260部，中2で3058部，高2で3821部であった。

がんについての印象では，「どちらかと言えばこわいと思う」と「こわいと思う」をあわせた回答割合が小学生81.1%，中学生82.8%，高校生82.6%と高い割合であったことなどが示された。がんについての知識では，子宮頸がんのワクチンを知っていると回答した割合は，中学生で66.8%，高校生で77.6%という結果などが明らかとなった。

本研究では，全国の小学生，中学生，高校生を対象に調査を実施し，がんについての意識と知識の実態が明らかとなった。今後，がんについての教育への寄与が期待されるエビデンスである。

研究分担者

衛藤 隆（母子愛育会子ども家庭総合研究所
所長）

渡邊正樹（東京学芸大学 教授）

物部博文（横浜国立大学 准教授）

助友裕子（国立がん研究センター 研究員）

杉崎弘周（新潟医療福祉大学 講師）

るがんの記述は，高等学校のみであるが，保健の教科書レベルでは小学校，中学校とも生活習慣病としてがんの原因や予防について取り上げられている[1][2][3]。

日本におけるがんに関連する調査では，がんに関する世論調査[4]，がんの予防に対する意識調査[5]などの全国調査が行われているが，児童生徒を対象としたものではない。一方，児童生徒の小児がんの認識および小児がん経験者への態度調査[6]，豊島区小学生への調査[7]，は児童生徒が対象だが，特定の地域に限られたものである。海外でも特定の地域を対象にしたものに限定されている[8]。そこで本研究では，児童生徒を対象とした全国調査を実施することで児童生徒のがんに対する意識や知識の実態を明らかにすることを目的とした。

A. 研究目的

がんは，1981年より日本人の死因の第1位であり，成人の約30%ががんで死亡している。しかしながら，これまで学校教育の中でがんについて教えられる機会は限られてきた。また，がんに対する関心の低さ，誤った認識によるがん患者やその家族への差別や偏見の問題も指摘されている。

わが国の学校教育では，学習指導要領におけ

B. 調査方法

1. 調査対象

調査対象は小学校5年生、中学校2年生、高等学校2年生とし、小学5年生から3学年刻みに3つの学校種が含まれるようにした。対象学年の選定に当たっては、小学校低学年を対象とした場合に各学校種共通の質問項目で調査を行うことが難しいこと、中学校と高等学校では中間の学年になるように考慮している。

全国の児童生徒を無作為に抽出して個々に調査を行うことは現実的に困難であるため、学校に依頼して学級単位で実施してもらうこととした。対象校の抽出には、2011年5月を基準とした全国の学校一覧名簿をデータベースとして用いた。各都道府県を層とし、小学校、中学校、高等学校の在籍児童生徒数に比例させて都道府県ごとの対象校の抽出を行った。在籍児童生徒数の最も少ない県の調査対象校数を1とし、その他の都道府県での調査対象校数は、児童生徒数の比に従って四捨五入によって決定した。ただし、東日本大震災の影響で児童生徒数が未確定であった岩手県、宮城県、福島県については、2010年度の名簿記載の児童生徒数によって比率を算出した(表1)。

実際の抽出には乱数を使用した。対象校は、国公立、私立、男子校、女子校、共学、全日制、定時制、学科、本校、分校、さらに学校の規模を問わず、使用したデータベースのすべての学校から抽出した。抽出された後、調査用紙発送の段階で統廃合になっていたことが判明した場合には、再び乱数を用いて学校の抽出を行った。

以上の操作により、全国から小学校213校、中学校222校、高等学校208校が選ばれた。対象校の学級数が不明であったため、対象学年の1学級に協力を求めるように学校長に依頼したのみで、対象学級の選定は学校に委ねた。本研

究の母集団は、日本の小学5年生、中学2年生、高校2年生であるが、調査対象の想定児童生徒数は不明である。

2. 調査期間

2013年1月下旬に調査用紙を発送し、2月下旬を返送期限とする約1か月間を調査期間とした。実施に関して、期日、時間帯等の指定はせず、実施マニュアルによって15分間の調査時間の確保をお願いしたのみであった。

3. 調査方法

郵送法によって学校(学級)単位で調査の依頼が行われた。対象校には、依頼状、担当者マニュアル、調査用紙、個別封筒、回収用封筒を郵送した。調査用紙は担当者によって児童生徒に配られ、回答後に個々に封筒に入れたものを回収用の大きな封筒に入れて一括して返信してもらう方法をとった。

4. 調査内容

小学生、中学生、高校生の共通項目は、がんについての意識とがんについての知識で構成した。さらに、中学生、高校生のみを対象とした項目として、子宮頸がんのワクチンについてとがんの治療法についてたずねた。

5. 調査内容の妥当性について

調査内容と設問は、先行研究を参考に構成された。設問の内容や文言の妥当性については、保健教育を専門とする複数の大学教員を中心に、医師、小学校教諭、中学校保健体育担当教諭、高等学校保健体育担当教諭、養護教諭、教育委員会指導主事などの専門家によって検討された。

C. 調査結果

1. 回収率および有効回答数

回収率は、小学校で44.1% (94校)、中学校で46.4%(103校)、高等学校で55.8%(116校)であった。回収された調査用紙における有効回答数は、小学生で2260部、中学生で3058部、高校生で3821部であり、これらを分析の対象とした(表1)。

2. 小学生の結果

(1) 性別

小学生では、男子は48.7%、女子は49.2%、無回答が2.1%であった(表2)。

(2) がんについての印象

こわいと思わない4.5%、どちらかといえばこわいと思わない2.1%、どちらかといえばこわいと思う16.2%、こわいと思う71.9%、わからない5.1%、無回答0.2%であった(表3)。

(3) がんは治療で治ると思うか

治ると思う25.8%、どちらとも言えない47.8%、治らないと思う13.0%、わからない13.1%、無回答0.4%という結果であった(表4)。

(4) 自分ががんになると思うか

思う8.5%、どちらとも言えない28.6%、思わない19.8%、わからない42.5%、無回答0.7%であった(表5)。

(5) がんは予防できると思うか

予防できると思う57.4%、どちらとも言えない17.1%、予防できないと思う12.3%、わからない12.8%、無回答0.4%であった(表6)。

(6) がんの検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思うか

受けようと思う 77.8%、どちらとも言えな

い16.7%、受けようと思わない4.8%、無回答0.7%であった(表7)。

(7) がんの検診はどこで受けられると思うか

複数回答で選択された割合は、病院や医院96.4%、職場11.3%、地域の保健センターや保健所41.0%、その他1.9%であった(表8)。

(8) がんの検診はどのような人が受けるものだと思うか

複数回答で、健康な人37.7%、自覚症状のある人77.4%、医者から受けるようにすすめられた人 74.1%、その他8.3%であった(表9)。

(9) がんはどのような原因でなると思うか

複数回答で、たばこ95.5%、お酒・アルコール81.6%、細菌・ウイルス59.0%、ストレス57.9%、運動不足32.4%、太りすぎ42.7%、野菜を食べない37.3%、脂肪(油)の取りすぎ54.4%、食品添加物28.0%、魚や肉の焼けこげ37.6%、塩分の取りすぎ47.5%、遺伝37.4%、環境ホルモン35.5%、直射日光の当たりすぎ30.0%、その他2.9%であった(表10)。

(10) がんのことを何で見知ったか

テレビ96.2%、雑誌14.2%、マンガ本12.8%、インターネット27.6%、新聞43.7%、家族の話47.2%、学校での保健の学習20.3%、学校での保健以外の学習7.3%、病院のポスターやチラシ53.7%、家族や親せきでがんにかかった人23.6%、家族や親せき以外の知り合いでがんにかかった人13.5%、その他2.8%であった(表11)。

3. 中学生の結果

(1) 性別

中学生では男子は49.7%、女子は47.1%、無

回答が3.2%であった（表12）

(2) がんについての印象

こわいと思わない8.3%，どちらかといえば、こわいと思わない3.4%，どちらかといえばこわいと思う16.9%，こわいと思う65.9%，わからない5.3%，無回答0.3%であった（表13）。

(3) がんは治療で治ると思うか

治ると思う24.0%，どちらとも言えない55.5%，治らないと思う12.0%，わからない8.3%，無回答0.2%という結果であった（表14）。

(4) 自分ががんになると思うか

思う13.3%，どちらとも言えない36.5%，思わない13.0%，わからない36.9%，無回答0.3%であった（表15）。

(5) がんは予防できると思うか

予防できると思う47.9%，どちらとも言えない24.1%，予防できないと思う14.7%，わからない13.0%，無回答0.2%であった（表16）。

(6) がんの検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思うか

受けようと思う68.1%，どちらとも言えない24.6%，受けようと思わない7.0%，無回答0.3%であった（表17）。

(7) がんの検診はどこで受けられると思うか

複数回答で選択された割合は、病院や医院96.7%，職場16.5%，地域の保健センターや保健所27.4%，その他1.2%であった（表18）。

(8) がんの検診はどのような人が受けるものだと思うか

複数回答で、健康な人60.7%，自覚症状のあ

る人75.2%，医者から受けるようにすすめられた人69.8%，その他9.8%であった（表19）。

(9) がんはどのような原因でなると思うか

複数回答で、たばこ94.4%，お酒・アルコール79.4%，細菌・ウイルス42.9%，ストレス52.9%，運動不足26.1%，太りすぎ33.5%，野菜を食べない29.0%，脂肪（油）の取りすぎ44.3%，食品添加物24.2%，魚や肉の焼けこげ40.1%，塩分の取りすぎ37.1%，遺伝57.4%，環境ホルモン28.7%，直射日光の当たりすぎ37.7%，その他2.9%であった（表20）。

(10) がんのことを何で見知ったか

テレビ96.5%，雑誌14.1%，マンガ本14.7%，インターネット29.0%，新聞32.9%，家族の話33.8%，学校での保健の学習40.1%，学校での保健以外の学習6.3%，病院のポスターやチラシ47.0%，家族や親せきでがんにかかった人27.2%，家族や親せき以外の知り合いでがんにかかった人15.8%，その他2.1%であった（表21）。

(11) 子宮頸がんの予防のためのワクチンがあることを知っているか

知っていると回答したのは66.8%，知らないが31.3%，無回答が1.9%であった（表22）。

(12) がんの治療方法

がんの治療方法で知っているものを複数選択するように求めたところ、手術は88.3%，抗がん剤が77.8%，放射線治療は中学生64.2%，であった（表23）。

4. 高校生の結果

(1) 性別

高校生は男子40.5%，女子56.5%，無回答が

3.1%であった（表24）。

(2) がんについての印象

こわいと思わない9.1%，どちらかといえば、こわいと思わない3.6%，どちらかといえばこわいと思う13.7%，こわいと思う68.9%，わからない4.0%，無回答0.6%であった（表25）。

(3) がんは治療で治ると思うか

治ると思う22.8%，どちらとも言えない60.0%，治らないと思う11.6%，わからない4.9%，無回答0.7%という結果であった（表26）。

(4) 自分ががんになると思うか

思う19.7%，どちらとも言えない40.9%，思わない8.9%，わからない29.8%，無回答0.6%であった（表27）。

(5) がんは予防できると思うか

予防できると思う43.0%，どちらとも言えない30.2%，予防できないと思う14.6%，わからない11.5%，無回答0.7%であった（表28）。

(6) がんの検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思うか

受けようと思う67.2%，どちらとも言えない24.2%，受けようと思わない7.9%，無回答0.7%であった（表29）。

(7) がんの検診はどこで受けられると思うか

複数回答で選択された割合は、病院や医院95.3%，職場16.6%，地域の保健センターや保健所36.0%，その他0.7%であった（表30）。

(8) がんの検診はどのような人が受けるものだと思うか

複数回答で、健康な人68.2%，自覚症状のあ

る人75.8%，医者から受けるようにすすめられた人65.2%，その他8.7%であった（表31）。

(9) がんはどのような原因でなると思うか

複数回答で、たばこ93.9%，お酒・アルコール76.6%，細菌・ウイルス30.4%，ストレス50.8%，運動不足30.8%，太りすぎ27.3%，野菜を食べない24.9%，脂肪（油）の取りすぎ38.5%，食品添加物24.8%，魚や肉の焼けこげ40.8%，塩分の取りすぎ32.9%，遺伝68.9%，環境ホルモン27.8%，直射日光の当たりすぎ41.5%，その他1.9%であった（表32）。

(10) がんのことを何で見知ったか

テレビ94.8%，雑誌14.0%，マンガ本12.7%，インターネット32.0%，新聞28.3%，家族の話31.9%，学校での保健の学習62.9%，学校での保健以外の学習9.3%，病院のポスターやチラシ38.3%，家族や親せきでがんにかかった人31.0%，家族や親せき以外の知り合いでがんにかかった人20.6%，その他1.5%であった（表33）。

(11) 子宮頸がんの予防のためのワクチンがあることを知っているか

知っていると回答したのは77.6%，知らないが20.9%，無回答が1.4%であった（表34）。

(12) がんの治療方法

がんの治療方法で知っているものを複数選択するように求めたところ、手術は88.3%，抗がん剤が89.7%，放射線治療は71.3%であった（表35）。

D. 倫理面への配慮

本研究はヘルシンキ宣言、疫学研究に関する倫理指針、日本学校保健学会倫理綱領を遵守し

て計画し、研究分担者の所属する新潟医療福祉大学倫理委員会の審査を経て承認を得ている。調査協力については、依頼した学校からの調査用紙の返送をもって承諾されたと判断した。調査用紙は完全無記名であるがデータ入力とその保管は研究実施者の管理の下に適切に行われた。

E. 考察

1. 本調査研究の価値について

本調査は、児童生徒のがんについての意識や知識の実態を明らかにしようとするものであったが、全国の都道府県の児童生徒数を考慮して実施されたものとしては、我々研究班が確認した限り本邦初であろう。

本調査の校種別の回収率は、小学校が最低の44.1%、高校が最高の55.8%であり、自治体の教育委員会を通さない調査としては高い回収率であると言えよう。

本調査で対象の抽出に用いたデータベースは、高等工業専門学校こそ除いたが、全国の国公立、私立、男子校、女子校、共学、全日制、定時制、学科、本校、分校、さらに学校の規模を問わないものとしており、母集団を反映していると考えられる。

結果の信頼性については、自記式の調査であったために検討の余地はある。そこで本調査研究では、簡便なマニュアルによる実施方法の統一、回答時間の十分な確保、専門家による妥当性や分かりやすさの検討、大量の質問項目を避けたことなどにより、回答者が適切に回答できるように配慮している。

2. 児童生徒のがんについての意識

がんについての印象で、「どちらかというところわいと思う」と「こわいと思う」と回答した割合をあわせると、小学生、中学生、高校生と

も8割を超えた。このうち、「こわいと思う」は7割程度を占めていた。この結果は、わが国の児童生徒向けのがんについての教育の在り方を検討する上で貴重なデータであろう。

がんは治らない病気であると思っていたのは、小学生の13.0%がもっとも高く、高校生の11.6%がもっとも低い割合であった。がんをこわいと思っているが、不治の病という認識ではないことがうかがえる。治療で治ると思うかという問いに対しては、どちらとも言えないが5割から6割を占めており、早期発見や良性の場合ならば完治が見込めるという一般的な見方をすることができている児童生徒も多いと言えよう。

受けられる年齢になったらがん検診を受けようと思うかという問いに、小学生では7割を超えたものの、中高生では7割を割り込むものであった。

3. 児童生徒のがんについての知識

がん検診について、病院や医院で受けられると回答した割合は95%を超えていた。しかし、地域の保健センターと回答した割合は半数にも満たなかった。また、がんの検診はどのような人が受けるものだと思うかという問いに、健康な人を選択した中高生が6割程度いる一方で、小学生は37%であった。

がんの原因でたばこを選択した割合は、どの学校種でも最も高く9割を超えていた。続いて酒・アルコールが続き8割前後の選択があった。3番目に高い回答割合は、小学校では細菌・ウイルスが59.0%であったのに対し、中学校と高校は遺伝でそれぞれ57.4%、68.9%であった。

がんについての情報源は、テレビを選択した割合がもっとも高く、小学生、中学生、高校生ともに9割を超えていた。成人を対象とした内閣府の調査においても、テレビを選択した割合

が73.6%と もっとも高くなっていた。本研究で示した児童生徒の実態とあわせ、わが国では幅広い年齢層ががんについての情報をテレビから得ていること示された。

F. 結論

本研究では、全国の小学生、中学生、高校生を対象に調査を実施し、がんについての意識と知識の実態が明らかとなった。今後、がんについての教育への寄与が期待されるエビデンスである。

文 献

- [1]文部科学省. 小学校学習指導要領解説 体育編. 東洋館出版社. 2008.
- [2]文部科学省. 中学校学習指導要領解説保健体育編. 東山書房. 2008.
- [3]文部科学省. 高等学校学習指導要領解説保健体育編. 2009.
- [4]内閣府大臣官房政府広報室. がん対策に関する世論調査. 2009.
<http://www8.cao.go.jp/survey/h21/h21-ganta-isaku/index.html> accessed May, 20.
- [5]ManamiInoue, MotokiIwasaki, TetsuyaOtoni, ShizukaSasazuki and ShoichiroTsugane. Publicawarenessofriskfactorsforcanceramon

gtheJapanesegeneralpopulation:Apopulation-basedsurvey.BMCPublicHealth2006,6:2. 2006.

[6]上別府圭子児童生徒の小児がんの認識および小児がん経験者への態度調査.厚生労働科学研究費補助金(がん臨床研究事業)総合研究報告書.2010.

[7]豊島区立小学校教育研究会学校保健研究部.平成23年度研究実践集録 生き生きとした心と体をつくる児童の育成 ～がん予防教育とのかかわりから～小学6年生とその母親に聞くがんに対する意識報告書.2011.

[8]Oakley,A.,Bendelow,G.,Barnes,J.,Buchanan,M.&Husain,O.A.N.Healthandcancerprevention:knowledgeandbeliefsofchildrenandyoungpeople.BritishMedicalJournal,310,1029-1033.1995.

G. 研究発表

- 1. 論文発表
なし
- 2. 学会発表
なし

H. 知的財産の出願・登録状況

なし

表1 対象校と回収率

	小学校	中学校	高等学校		小学校	中学校	高等学校
北海道	8	9	9	京都府	4	4	5
青森県	2	2	2	大阪府	15	16	15
岩手県	4	4	4	兵庫県	10	10	9
宮城県	4	4	4	奈良県	2	3	2
秋田県	2	2	2	和歌山県	2	2	2
山形県	2	2	2	鳥取県	1	1	1
福島県	4	4	4	島根県	1	1	1
茨城県	5	5	5	岡山県	3	3	3
栃木県	3	3	3	広島県	5	5	5
群馬県	4	4	3	山口県	2	2	2
埼玉県	12	12	11	徳島県	1	1	1
千葉県	10	10	9	香川県	2	2	2
東京都	18	19	19	愛媛県	2	2	2
神奈川県	15	15	12	高知県	1	1	1
新潟県	4	4	4	福岡県	9	9	8
富山県	2	2	2	佐賀県	2	2	2
石川県	2	2	2	長崎県	2	3	3
福井県	1	2	1	熊本県	3	3	3
山梨県	1	2	2	大分県	2	2	2
長野県	4	4	4	宮崎県	2	2	2
岐阜県	4	4	4	鹿児島県	3	3	3
静岡県	6	7	6	沖縄県	3	3	3
愛知県	13	14	12	全体	213	222	208
三重県	3	3	3	回収数	94	103	116
滋賀県	3	3	2	回収率	44.1%	46.4%	55.8%

表2 あなたは男ですか、女ですか。【小学生】

	回答数	割合
男	1101	48.7%
女	1112	49.2%
無回答	47	2.1%
合計	2260	100.0%

表3 【小学生】あなたは、「がん」についてどのような印象を持っていますか。

	回答数	割合
こわいと思わない	101	4.5%
どちらかというところわいと思わない	48	2.1%
どちらかというところわいと思う	365	16.2%
こわいと思う	1626	71.9%
わからない	115	5.1%
無回答	5	0.2%
合計	2260	100.0%

表4 「がん」は治療で治ると思いますか。【小学生】

	回答数	割合
治ると思う	583	25.8%
どちらとも言えない	1080	47.8%
治らないと思う	293	13.0%
わからない	295	13.1%
無回答	9	0.4%
合計	2260	100.0%

表5 あなたは将来、自分が「がん」になるとと思いますか。【小学生】

	回答数	割合
思う	191	8.5%
どちらとも言えない	646	28.6%
思わない	447	19.8%
わからない	960	42.5%
無回答	16	0.7%
合計	2260	100.0%

表6 「がん」は予防できると思いますか。【小学生】

	回答数	割合
予防できると思う	1298	57.4%
どちらとも言えない	386	17.1%
予防できないと思う	279	12.3%
わからない	289	12.8%
無回答	8	0.4%
合計	2260	100.0%

表7 「がん」の検診を受けられる年齢になったら、あなたは検診を受けようと思いますか。【小学生】

	回答数	割合
受けようと思う	1759	77.8%
どちらとも言えない	378	16.7%
受けようと思わない	108	4.8%
無回答	15	0.7%
合計	2260	100.0%

表8 「がん」の検診はどこで受けられると思いますか（複数選択可）。【小学生】

	回答数	割合
--	-----	----

病院や医院	2178	96.4%
職場	256	11.3%
地域の保健センターや保健所	926	41.0%
その他	42	1.9%

表9 「がん」の検診はどのような人が受けるものだと思いますか（複数選択可）。【小学生】

	回答数	割合
健康な人	853	37.7%
自覚症状のある人	1750	77.4%
医者から受けるようにすすめられた人	1674	74.1%
その他	188	8.3%

表10 「がん」はどのような原因でなると思いますか（複数選択可）。【小学生】

	回答数	割合
たばこ	2158	95.5%
お酒(さけ)・アルコール	1845	81.6%
細菌・ウイルス	1333	59.0%
ストレス	1308	57.9%
運動不足	733	32.4%
太りすぎ	966	42.7%
野菜を食べない	843	37.3%
脂肪(油)の取りすぎ	1230	54.4%
食品添加物	633	28.0%
魚や肉の焼けこげ	850	37.6%
塩分の取りすぎ	1074	47.5%
遺伝	846	37.4%
環境ホルモン	802	35.5%
直射日光の当たりすぎ	677	30.0%
その他	66	2.9%

表11 「がん」のことを何で見たり知ったりしましたか（複数選択可）。【小学生】

	回答数	割合
テレビ	2174	96.2%
雑誌	322	14.2%
マンガ本	290	12.8%
インターネット	624	27.6%
新聞	987	43.7%

家族の話	1066	47.2%
学校での保健の学習	459	20.3%
学校での保健以外の学習	165	7.3%
病院のポスターやチラシ	1213	53.7%
家族や親せきでがんにかかった人	533	23.6%
家族や親せき以外の知り合いでがんにかかった人	305	13.5%
その他	64	2.8%

12 あなたは男ですか、女ですか。【中学生】

	回答数	割合
男	1520	49.7%
女	1440	47.1%
無回答	98	3.2%
合計	3058	100.0%

表 13 あなたは、「がん」についてどのような印象を持っていますか。【中学生】

	回答数	割合
こわいと思わない	253	8.3%
どちらかというところわいと思わない	104	3.4%
どちらかというところわいと思う	516	16.9%
こわいと思う	2015	65.9%
わからない	161	5.3%
無回答	9	0.3%
合計	3058	100.0%

表 14 「がん」は治療で治ると思いますか。【中学生】

治ると思う	733	24.0%
どちらとも言えない	1698	55.5%
治らないと思う	367	12.0%
わからない	255	8.3%
無回答	5	0.2%
合計	3058	100.0%

表 15 あなたは将来、自分が「がん」になると思いますか。【中学生】

思う	408	13.3%
どちらとも言えない	1115	36.5%

思わない	398	13.0%
わからない	1128	36.9%
無回答	9	0.3%
	3058	100.0%

表 16 「がん」は予防できると思いますか。【中学生】

	回答数	割合
予防できると思う	1466	47.9%
どちらとも言えない	738	24.1%
予防できないと思う	448	14.7%
わからない	399	13.0%
無回答	7	0.2%
合計	3058	100.0%

表 17 「がん」の検診を受けられる年齢になったら、あなたは検診を受けようと思いますか。【中学生】

	回答数	割合
受けようと思う	2082	68.1%
どちらとも言えない	753	24.6%
受けようと思わない	214	7.0%
無回答	9	0.3%
合計	3058	100.0%

表 18 「がん」の検診はどこで受けられると思いますか（複数選択可）。【中学生】

	回答数	割合
病院や医院	2956	96.7%
職場	506	16.5%
地域の保健センターや保健所	838	27.4%
その他	38	1.2%

表 19 「がん」の検診はどのような人が受けるものだと思いますか（複数選択可）。【中学生】

	回答数	割合
健康な人	1856	60.7%
自覚症状のある人	2298	75.1%
医者から受けるようにすすめられた人	2133	69.8%
その他	300	9.8%

表 20 「がん」はどのような原因でなると思いますか（複数選択可）。【中学生】

	回答数	割合
たばこ	2888	94.4%
お酒(さけ)・アルコール	2429	79.4%
細菌・ウイルス	1311	42.9%
ストレス	1619	52.9%
運動不足	798	26.1%
太りすぎ	1023	33.5%
野菜を食べない	887	29.0%
脂肪(油)の取りすぎ	1355	44.3%
食品添加物	741	24.2%
魚や肉の焼けこげ	1226	40.1%
塩分の取りすぎ	1134	37.1%
遺伝	1755	57.4%
環境ホルモン	879	28.7%
直射日光の当たりすぎ	1154	37.7%
その他	88	2.9%

表 21 「がん」のことを何で見たり知ったりしましたか (複数選択可)。【中学生】

	回答数	割合
テレビ	2950	96.5%
雑誌	430	14.1%
マンガ本	449	14.7%
インターネット	886	29.0%
新聞	1006	32.9%
家族の話	1034	33.8%
学校での保健の学習	1226	40.1%
学校での保健以外の学習	192	6.3%
病院のポスターやチラシ	1436	47.0%
家族や親せきでがんにかかった人	833	27.2%
家族や親せき以外の知り合いでがんにかかった人	484	15.8%
その他	63	2.1%

表 22 「子宮頸がん」の予防のためのワクチン接種 (予防注射) があることを知っていますか。【中学生】

	回答数	割合
知っている	2044	66.8%
知らない	957	31.3%
無回答	57	1.9%

合計	3058	100.0%
----	------	--------

表 23 「がん」の治療方法で知っているものに○をつけてください（複数選択可）。【中学生】

	回答数	割合
手術	2699	88.3%
抗がん剤	2379	77.8%
放射線治療	1963	64.2%

表 24 あなたは男ですか、女ですか。【高校生】

	回答数	割合
男	1546	40.5%
女	2157	56.5%
無回答	118	3.1%
合計	3821	100.0%

表 25 あなたは、「がん」についてどのような印象を持っていますか。【高校生】

	回答数	割合
こわいと思わない	349	9.1%
どちらかというところわいと思わない	139	3.6%
どちらかというところわいと思う	525	13.7%
こわいと思う	2632	68.9%
わからない	153	4.0%
無回答	23	0.6%
合計	3821	100.0%

表 26 「がん」は治療で治ると思いますか。【高校生】

	回答数	割合
治ると思う	872	22.8%
どちらとも言えない	2291	60.0%
治らないと思う	445	11.6%
わからない	186	4.9%
無回答	27	0.7%
合計	3821	100.0%

表 27 あなたは将来、自分が「がん」になると思いますか。【高校生】

	回答数	割合
思う	752	19.7%

どちらとも言えない	1564	40.9%
思わない	341	8.9%
わからない	1140	29.8%
無回答	24	0.6%
合計	3821	100.0%

表 28 「がん」は予防できると思いますか。【高校生】

	回答数	割合
予防できると思う	1642	43.0%
どちらとも言えない	1155	30.2%
予防できないと思う	557	14.6%
わからない	440	11.5%
無回答	27	0.7%
合計	3821	100.0%

表 29 「がん」の検診を受けられる年齢になったら、あなたは検診を受けようと思いますか。【高校生】

	回答数	割合
受けようと思う	2567	67.2%
どちらとも言えない	925	24.2%
受けようと思わない	303	7.9%
無回答	26	0.7%
合計	3851	100.0%

表 30 「がん」の検診はどこで受けられると思いますか（複数選択可）。【高校生】

	回答数	割合
病院や医院	3641	95.3%
職場	633	16.6%
地域の保健センターや保健所	1374	36.0%
その他	28	0.7%

表 31 「がん」の検診はどのような人が受けるものだと思いますか(複数選択可)。【高校生】

	回答数	割合
健康な人	2606	68.2%
自覚症状のある人	2897	75.8%
医者から受けるようにすすめられた人	2493	65.2%
その他	332	8.7%

表 32 「がん」はどのような原因でなると思いますか(複数選択可)。【高校生】

	回答数	割合
たばこ	3589	93.9%
お酒(さけ)・アルコール	2927	76.6%
細菌・ウイルス	1163	30.4%
ストレス	1941	50.8%
運動不足	1177	30.8%
太りすぎ	1045	27.3%
野菜を食べない	953	24.9%
脂肪(油)の取りすぎ	1471	38.5%
食品添加物	946	24.8%
魚や肉の焼けこげ	1559	40.8%
塩分の取りすぎ	1259	32.9%
遺伝	2631	68.9%
環境ホルモン	1063	27.8%
直射日光の当たりすぎ	1586	41.5%
その他	72	1.9%

表 33 「がん」のことを何で見たり知ったりしましたか(複数選択可)。【高校生】

	回答数	割合
テレビ	3624	94.8%
雑誌	536	14.0%
マンガ本	487	12.7%
インターネット	1222	32.0%
新聞	1083	28.3%
家族の話	1220	31.9%
学校での保健の学習	2404	62.9%
学校での保健以外の学習	355	9.3%
病院のポスターやチラシ	1463	38.3%
家族や親せきでがんにかかった人	1186	31.0%

家族や親せき以外の知り合いでがんにかかった人	787	20.6%
その他	56	1.5%

表 34 「子宮頸がん」の予防のためのワクチン接種(予防注射)があることを知っていますか。【高校生】

	回答数	割合
知っている	2967	77.6%
知らない	800	20.9%
無回答	54	1.4%
合計	3821	100.0%

表 35 「がん」の治療方法で知っているものに○をつけてください(複数選択可)。【高校生】

	回答数	割合
手術	3375	88.3%
抗がん剤	3428	89.7%
放射線治療	2724	71.3%

がんについての調査（小学生）

- ・みなさんにこたえてもらった結果^{けっか}は、日本でがんで亡くなる人をへらすための研究^{けんきゅう}に使用します。
- ・終わった後は、一人一人が封筒^{ふうとう}に入れてから集めます。あなたの名前や学校はわからないように研究室^{けんきゅうしつ}に送られます。
- ・学校の成績^{せいせき}には関係^{かんけい}ありません。
- ・思ったことや知っていることを正直^{しょうじき}に書いてください。
- ・こたえたくない人はこたえなくてもいいです。

みなさん協力をよろしくお願いします。